



2010年7月15日

各 位

会 社 名：株 式 会 社 クレハ
代 表 者：代表取締役社長 岩崎隆夫
コード番号：4023（東証・大証1部）
問い合わせ先：広報・IR部長 数井明生
(TEL：03-3249-4651)

リチウムイオン電池用負極材『カーボトロンP』の車載向け採用に伴う設備増強について

株式会社クレハ（本社：東京都中央区、以下「クレハ」）は、クレハが製造・販売するリチウムイオン電池（以下「LiB」）用負極材『カーボトロンP』が EnerDel, Inc.（本社：米国インディアナ州、以下「EnerDel」）の EV 用 LiB 負極材として採用されたこと、並びに今後の EV、PHEV 及び HEV 向け LiB の需要増加に対応して、いわき事業所の製造設備（現、年産 600 トン）を 2012 年 1 月までに年産 1,600 トンへ増強することとしました。

また、クレハ、伊藤忠商事株式会社（本社：東京都港区、以下「伊藤忠商事」）及び EnerDel は、『カーボトロンP』を EnerDel に供給するため、米国で 2013 年初めに稼動する新設プラントの第 1 期工事に係る設計業務開始について合意し、その業務を米国エンジニアリング会社と開始しました。

なお、いわき事業所での設備増強の詳細並びに米国で新設するプラント及び製造・販売を含む運営体制等の詳細については、決まり次第お知らせします。

クレハは、石油ピッチを原料とする活性炭製造技術をベースに、1991 年に『カーボトロンP』（構造から“ハードカーボン”と呼ばれる）を事業化しました。以来、『カーボトロンP』は、その特性である充放電特性と耐久性を活かした用途（産業用大型 LiB）を中心に使用されてきました。現在、自動車及び電池メーカー各社が車載用 LiB の開発に注力する中、各社で『カーボトロンP』のテストが進行しており、その優れた特性から評価が高まっています。クレハは、EnerDel の EV 用 LiB 負極材の供給を全面的に支援するとともに、今回の EnerDel での EV 用途への採用を契機に、これまでの HEV 用途ばかりでなく、EV や PHEV 用 LiB の負極材サプライヤーとして確固たる地位を築いてまいります。

伊藤忠商事は、中期経営計画 Frontier[®]2010 において、蓄電池分野を重点取り組み分野と位置づけ、米国の LiB メーカーの Ener 1（NASDAQ 上場）への出資、米国でのシンボルマイニング社への出資によるリチウム資源確保、戸田工業株式会社との LiB 正極材生産・販売合弁会社の設立、つくば市における低炭素交通社会システムの共同実証プロジェクトへの参画など、原材料や製造装置の販売から電池の 2 次利用まで展開を進め、電力貯蔵・蓄電池関連のバリューチェーン構築を行っています。

EnerDel は、Ener 1 の 100%子会社で OEM レベルの車載用 LiB システムを製造できる電池メーカーです。米国内で唯一、セルから電池システムまで一貫して開発・製造できる量産設備を持ち、既にノルウェーの THINK 社、スウェーデンの Volvo 社へ電池システムの供給が決まっております。また、中国の最大手自動車部品メーカーWanxiang（万向集団）と共同で EV 用電池システムの開発・生産する合弁会社設立の作業に入っております。

今回、米国においてクレハ、伊藤忠商事が EnerDel 向けに協働して事業を進めることは、今後急速な拡大が予想される LiB 市場にタイムリーに対応できる体制づくりの第一歩となるものと認識しています。

なお、本件によるクレハの当期業績予想への影響は軽微です。

以上